

# 静内の授産所に助成金

## 損保ジャパン記念財団 NPO法人化を支援



【静内】損保ジャパン記念財団は二十九日、民間非営利団体(NPO)法人の設立準備を進める「しずない小規模授産所」(木村泰通代表)に、助成金三十万円を贈った。(加藤利器)

同財団は六年前からN代表として高橋広幸さんがP O法人化を支援する助成を行っており、今年はて立派に生活していきま全国で七十団体、道内かす」とお礼の言葉を述べら同授産所を含む三団体が選ばれた。

この日は、沢拓也・南設立され、現在十五人の北海道支店長(札幌)が通所者が印刷業務や木工授産所を訪れ、助成金三十万円を贈呈。通所者を組んでいる。すでにNPO法人の認証申請を道に提出しており、早ければ十月にも認証される見通しだ。

今回初めて贈呈式に携わり、当該施設の竹田所長からいろいろなNPO関連のお話を頂きました。

その中で、法人設立後は各種助成が受けられる制度はあるが、法人設立の助成をしてくれる団体はほとんど存在しないとのこと。あらためて損保ジャパングループの援助にすばらしい意義を感じました。

また、当日通所者が作成された木工・手工芸品を頂き大変感激致しました。

[苫小牧支社]リーダー(支社長) 渡辺 勝則 さん

しずない小規模授産所に助成金

損保ジャパンがNPO設立支援

静内町のしずない小規模授産所(木村泰通代表)は、NPO(特定非営利活動法人)「木の福祉会」を設立準備を進めているが、二十九日に損害保険ジャパン記念財団(本部東京、平野浩志理事長)から、設立資金助成金三十万円が贈呈された。

同記念財団の社会福祉助成事業で、二〇〇四年度は全国から二百二十五カ所から申請があり、七十カ所への助成を決めた。このうち道内は同授産所を含め三カ所に助成することになったという。

損害保険ジャパンの沢拓也副北海道支店長、渡辺勝則苫小牧支社長が同授産所を訪れ、木村代表に「ささやかな援助だけれど有効に使ってほしい」と、助成金三十万円を手渡した。

同授産所は現在、道知事にNPO法人認証申請をしており、今秋には認証される見通しと、助成金は設立準備資金として活用する。



沢支店長(左)から木村代表に助成金が贈られた



# NPO化に弾み

## しずない授産所に助成金



沢支店長(左)から助成決定書を受け取る木村所長(右)

【静内】在宅知的障害者の就労の場として、廃品の回収、アルミ缶選別など自立更正のための職場訓練を行っている「しずない小規模授産所」(木村泰通所長)は、特定非営利活動法人(NPO)「木の福祉会」の設立を申請中だが、このほどNPO設立を支援する損保ジャパン記念財団から三十万円の設立助成金が贈られた。

授産所は昭和六十一年の設立。現在十五人がコンプの分別、各職場での実習、イベントへの参加など様々な事業を行っている。

記念財団は社会福祉助成事業で全国二百二十五事業のうち七十事業、道内で三事業に支援を決定。このほど損保ジャパンの沢拓也副北海道支店長らが授産所を訪れ、木村所長に社会福祉助成金の決定書を手渡したが、木村所長は「これでNPO承認に弾みがついた」と喜んでいった。

7月1日の贈呈式は、「工房てんとう虫」の須藤所長他、障害者家族会「かわさき虹の会」、高齢者ボランティア団体「さぼてんグループ」、川崎村役場の皆様が総勢20名以上参加され、盛大に行われました。

NPO法人化により、障害者の方々の社会参加がさらに促進されることへの期待を強く感じました。

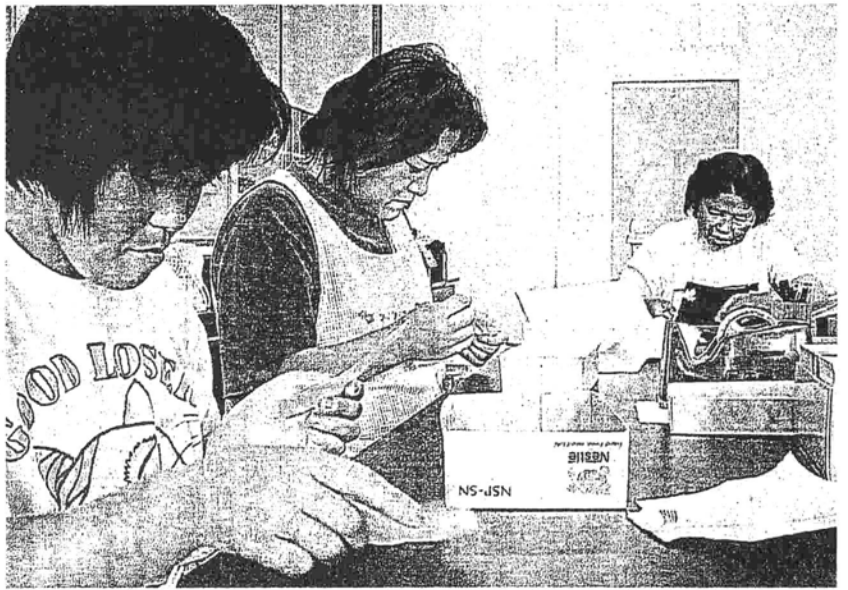
[岩手支店]リーダー  
井上 史也 さん



5.

朝礼の際に訪問し、会員の皆様の前で贈呈式を実施。佐藤代表も身体障害者を持っていたらっしゃいましたが、大変喜んでいただきました。

[札幌支店]リーダー  
渡邊 滋 さん



はがき作りに励む工房てんとう虫の利用者

## 川崎村の障害者作業所「てんとう虫」

# 発足2年さあ「脱皮」

川崎村薄衣の障害者作業所・工房てんとう虫(須藤静恵所長)は、障害者の家族会かわさき虹の会(千葉重雄会長、十五人)から、新たな民間非営利団体(NPO)法人への運営移行を目指している。てんとう虫が七月一日、財団法人損保ジャパン記念財団から設立資金の助成を受けることが決まり、早ければ年内にもNPOを設立したい考えだ。

## 家族会の運営 NPO主体に

年内にも設立

てんとう虫は、かわさき日、同村薄衣の空き店舗でいる。虹の会が運営主体となり、二〇〇二年八月発足。村内の十三人が登録し、十一人が常時利用している。指導者は須藤所長ら二人。土、日曜日を除く平日、同村薄衣の空き店舗でいる。NPO法人化は、家族会の会員の減少、高齢化などで、村内の高齢者ボランティア団体「さぼてんグループ」(鈴木章会長)の支援を得て、絵画やはがき作り、高齢者宅の草取りなどの活動を展開し、新組織で再出発する形を取る。

須藤所長は「新たな運営組織で障害者の環境が一層良くなるよう支援していきたい」と期待を込める。

設立資金の助成は今年四月、全国的に社会福祉助成活動を展開している同財団(厚生労働省所管)に申請。六月上旬に三十万円の助成が決まった。

七月一日に生涯学習ステーションで行われる助成金贈呈式の後、設立準備会を開催し、NPO法人化に向けて本格的に活動を進める。

6.

贈呈式でお会いした小島理事の「キラキラとした目の輝き」と「熱のこもったお話」が印象的でした。

そして何よりも本助成を本当に喜んでおられ、今さらながら助成金の重さと暖かさを感じました。

[仙台支店]支店長 梶谷 良一 さん



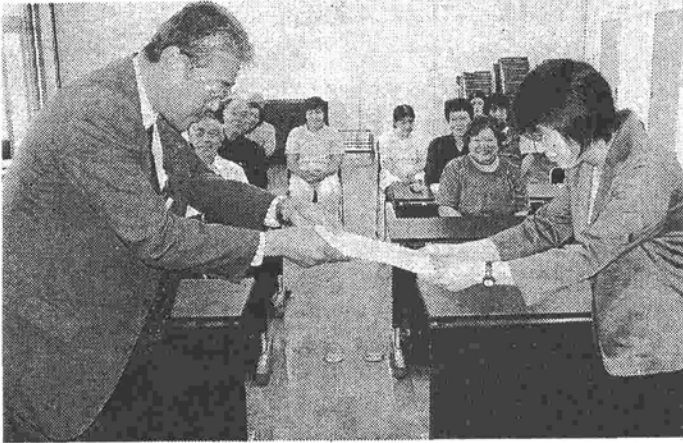
7. 岩手日日新聞 (7/2)

工房てんとう虫(川崎)に通知書  
NPO 年度中の設立目指す  
資金助成

損保ジャパン記念財団  
(理事長・平野浩志) 損保シ  
ヤパン社長)のNPO(民  
間非営利団体)法人設立資  
金助成贈呈式は一日、川崎

村薄衣の村生涯学習ステ  
ーションで開かれ、小規模作  
業所「工房てんとう虫」  
(須藤静恵所長)に決定通  
知書を手渡した。工房てん  
とう虫は十六年度中のNPO  
設立を目指しており、同  
日は設立準備会を開いて発  
起人五人を選任。法人化へ  
一歩踏み出した。  
午後一時からの贈呈式で  
は、損保ジャパン岩手支店  
の坂本守支店長が「社会貢  
献活動の一環で、NPO設  
立資金を助成し、障害者や  
高齢者福祉団体の活動を支  
援している」とあいさつ。  
坂本支店長が須藤所長に資  
金助成決定通知書を手渡し  
た。

須藤所長は「工房てんと  
う虫は今年で二年目を迎  
え、運営組織の高齢化が進  
み、NPO設立を検討。法  
人設立資金はともありが  
たく、無駄にしないように  
立ち上げたい」と感謝の言  
葉を述べた。



NPO法人設立資金助成贈呈式で須藤所長(右)に  
助成決定通知書を贈る坂本支店長(左)

贈呈式終了後、NPO法  
人設立に向け、村やボラン  
ティアらで準備会を開催。  
発起人代表に葛西秋夫さん  
、同村門崎字銚子IIを選  
任、設立総会を十一月に開  
催する予定。須藤所長は  
「市町村合併の議論も進ん

であり、今年度中には設立  
させたい」と話している。  
NPO法人設立資金助成  
には二百二十五件の申し込  
みがあり、審査の結果七十  
団体に各三十万円、計二千  
百万円を助成する。工房て  
んとう虫はさまざまな障害  
を抱える人たちが自立支援の  
小規模作業所として十四年  
八月に発足。絵画やミニ掛  
け軸、各種人形などの制作  
に取り組んでいる。

小国の共同作業所に助成金

損保ジャパン NPO法人化を支援



損保ジャパン記念財団  
(平野浩志理事長)は十  
四日、特定非営利活動法  
人(NPO法人)化を目  
指している小国の共同  
作業所「まんまる」(渡  
辺重雄理事長)に、法人  
設立助成金三十万円を贈  
呈した。  
作業所で行われた贈呈  
式で、五日市喬弘損保シ  
ヤパン山形支店長は「小  
国町初のNPO法人化  
で、より活発な活動を展  
開し、市民活動の先駆的

役割を果たしてほしい」  
と期待を込め、まんまる  
の渡辺重雄理事長と、渡  
部昭七施設長に、助成の  
決定通知書を手渡した。

助成の決定通知書を受け  
取る渡辺重雄理事長(中)  
と渡部昭七施設長(左)  
渡辺理事長は「多くの  
町民の理解を得ながら、  
障害者の支援を続けてき  
た。これからも期待に応  
えられるよう頑張りたい  
」と意気込みを語った。  
同記念財団は一九七七  
(昭和五十二年)、社会  
福祉助成を目的に設立。  
NPO法人の設立助成は  
九九年度からスタート  
し、本年度は、全国で七  
十団体に総額二千万円  
を贈る。まんまるは知的  
身体障害者の作業所とし  
て九六年に開設。九月に  
認証を取得する予定だ。

8. 米澤新聞 (7/15)

共同作業所に助成金

損保財団

損保ジャパン記念財団  
(平野浩志理事長)は十四  
日、小国の共同作業所・  
まんまる(渡辺重雄代表)  
にNPO法人設立資金とし  
て三十万円を助成した。同

社山形支店の五日市喬弘支  
店長と丸田孝人米沢支社長  
らが作業所を訪れ、渡辺代  
表に手渡した。写真。  
同財団の助成は、民間福  
祉活動推進を目的に実施さ  
れており、今回が二十七回  
目。今年是全国七十の団体  
に対し、総額二千万円が



助成された。

9. 山形新聞 (7/15)





10. 茨城新聞(8/31)

県内2団体に  
助成金を贈呈

損保ジャパン財団

損保ジャパン記念財団  
(平野浩志理事長)は二  
十六日、内原町のフリー  
スペースすだち(須田彰  
代表)と東海村のドリー  
ムたんぼ(中村朋子代  
表)に、NPO法人設立  
資金として各三十万円の



助成金を贈った。  
フリースペースすだち  
はパンの製造販売などを  
通して引きもちがちな

若者を支援している。ド  
リームたんぼは知的障  
害者によるパン工房を運  
営している。両団体は二  
十五日付で県からNPO  
法人の認証を受けた。  
贈呈式は水戸市南町二  
丁目の損害保険ジャパン  
茨城支店で開かれ、伊東  
新介支店長(写真左)が  
須田、中村両代表にそれ  
ぞれ目録を手渡した。須  
田代表ら二人は、「感謝  
でいっぱい。今後の活動  
に役立てます」と謝辞を  
述べた。  
同財団は一九七七年に  
設立。九九年度からNP  
O法人設立を助成してい  
る。本年度の助成対象は  
全国七十団体。

NPO助成金  
2団体に贈呈

前橋で損保  
ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団  
(平野浩志理事長、東京  
都新宿区)は三十日、前  
橋市本町の損保ジャパン  
群馬支店(宮下佳蔵支店  
長)で、障害者や高齢者  
福祉団体のNPO法人  
設立資金として県内の  
二団体に助成金を寄贈  
した。

助成金を受け取ったの  
は、同法人「ノア」(織  
俊子代表、高崎市新後閑  
町)と一星の里(前川  
知三代代表、富士見村引  
田)。それぞれに三十万  
円が贈られた。



助成金の目録を受け取っ  
た織さん(右から3人目)

贈呈式で、宮下支店長

11. 上毛新聞 (7/31)

いつもながら懇談の時間が有意義です。それは資金  
援助の面から感謝されることだけでなく、贈呈式開催  
を担当することにより、贈呈先の代表の方のご苦労  
や、やりがいなど生の声を聞ける立場にたてることに  
もあります。また、来賓の方からは、この助成金の利  
用を広く紹介していきたいとお言葉を頂きました。

[群馬支店] 伊藤 芳江 さん

贈呈式後の懇談の時間で、実際に多くのボランテ  
ィアの協力によって活動が行われている現実を聞き、心温まる思いをしました。また法人設立資金が  
有意義に使われることが大変うれしく、今後とも可  
能な限り協力を行いたいという思いに満たされました。  
[金沢支店]リーダー 仁田脇 慎市 さん

事業発展につなげてほ  
しい」と述べた。



三十万円の助成金を  
方成(右)に手渡し  
た。佐藤(左)は  
真支店長は  
彦支店長は  
一化法は  
一層の

福祉推進で30万円助成  
損保ジャパン記念財団  
は29日、高齢者、障害者  
の支援団体「WAC輝  
き」(金沢市)に対し、  
NPO法人設立資金とし

12. 北國新聞 (7/30)

13.

贈呈式のとき会の活動の話になり、(贈呈  
先のプラタナスの会はビーズ細工の指輪  
等を販売している)。当社側が、10月に中  
部ビルで開催されるパペットフェスティバル  
(当社協賛)のフリーマーケットに出店でき  
るよう事務局に連絡を取って差し上げた  
ところ、同店が出店できることとなりました。

[名古屋支店]リーダー  
田附 幾雄さん





県内2団体に贈られたNPO法人設立資金助成金の贈呈式—静岡市呉服町の損保ジャパン静岡支店

保  
損  
シ  
ヤ  
パ  
ン  
N  
P  
O  
認  
証  
へ  
2  
団  
体  
に  
助  
成  
金

損保ジャパン記念財団 助成金三十万円を「フリー  
(東京)は十四日、本年「スペース・うえるび」  
度のNPO法人設立資金(島田市)と「人形劇ア

プロジェクト「稲むらの火」(富士宮市)に贈った。  
うえるびは障害者の地域生活支援を進める事業所で五月に発足。障害者が気軽に訪れる憩いの場を用意するほか相談業務、ヘルパー派遣などを行っている。十月にNPO認証取得の見通し。助成金は憩いの場のバリアフリー化、パソコン購入などにあてるといふ。  
稲むらの火は小泉八雲原作で、防災を呼び掛ける内容の人形劇。二〇〇三年から各地で公演を続け、今後は和歌山県や八雲ゆかりの焼津市で公演予定。今月中に認証取得見込みで、助成金は公演費用などに充てる。  
贈呈式は同社静岡支店で行い、中島寛支店長が決定通知書を両団体の代表に手渡した。助成は九年度に始まった。本年度助成対象は全国で七十団体。

助成金を大変喜んでいただけたのが、印象に残りました。

[岐阜支店]リーダー 永見 徹一 さん

いなべのNPO  
に設立資金助成  
損保ジャパン記念財団



【津】損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)は二十一日、津市栄町の損害保険ジャパン三重支店会議室で特定非営利活動法人(NPO)法人設立資金助成の贈呈式を開き、同財団理事長代理の損害保険ジャパン三重支店村上修一支部長が、いなべ市のNPOウィミィ代表、出口いつ子さんに社会福祉助成決定通知書を手渡した。  
村上支部長は損保ジャパンの設立趣旨について話し「年々応募倍率が高くなっている

なか、県で初めての授与にさらに活動を推進して、地域の福祉に貢献してください」と祝い、出口代表は「在宅支援を中心に高齢者の支援をしてきた。助成を機にますます頑張っていきます」と礼を述べた。  
同財団は社会貢献活動の一環として昭和五十二年に設立し、社会福祉助成を毎年実施し(ことしで二十八回目を迎える。平成十一年からは助成対象を高年齢者・障害者福祉団体

がNPO法人になるための設立支援を目的にした。平成十六年度は、全国七十の障害者・高齢者福祉団体に対し、NPO設立資金として各三十万円、合計二千百万円の助成を決定した。同財団のこれまでの社会福祉助成金額の累計は約十一億五千万円になっている。

今回の贈呈先は、放置された果樹園を手入れして、障害者の授産・自然公園としての地域への貢献(認知度を上げる・受け入れられる)を目的に、現在の障害者施設・授産事業を広げる目的でのNPO設立先です。代表の方との面談では、日ごろのわれわれの商売(?)とは全く異質な、高邁な理念で社会福祉事業に貢献されてこられた実績に、頭が下がる思いを致しました。是非事業が成功されんことをお祈りします。 [滋賀支店]リーダー 向井 隆晃 さん

今回の贈呈で感じたこと

- \* 今まで贈呈して来たNPOの状況をヒアリングして、「その後のNPO法人」として目的とした事業がどうか?、理想としたレベルの事業内容を達成したかなどを特集記事にしては如何でしょうか?
- \* 財団として社会に貢献してきた実績とその効果・結果を、社内・社外にアピールできるものができるのでは?

[滋賀支店]リーダー 向井 隆晃 さん